# 教員公募用 教育研究の抱負（架空の記入例）

ソクレキ独自の架空記入例。氏名・所属・研究・業績・授業・数値は実在しません。

| | |
|---|---|
| 氏名 | 架空 直子 |
| 応募先・対象公募 | 架空大学 情報デザイン学部 情報整理分野 教員公募（自由様式・架空） |
| 研究と教育の接点 | 学生が情報を探す過程を説明できる教材と分類手順の検討 |

### 研究実績の要約からつながる課題

私は架空大学の学内演習で、案内文を分類する小規模な授業を担当した。学生が分類理由を表に残す課題を行った。研究論文や外部資金の実績はない。

### 採用後の研究

授業で扱える公開資料の案内構造を記録し、見出しと本文の対応を比較する。研究として扱う範囲、公開条件、必要な手続きを先に確認する。

### 教育への接続

学生が資料の出典、見出し、読み手を示し、改善案の根拠を説明する演習を設計する。達成度は分類表と説明文で確認する。

## 教育研究の進め方

### 担当業務・学生指導との関係

募集科目の「情報整理の基礎」と「資料分類演習」で、出典・見出し・判断理由を記録する課題を行う。学生指導では、事実と解釈を分けて説明させる。

## 時期ごとの計画

| 時期 | 行うこと |
|---|---|
| 着任後 1〜3 か月 | 公開条件を確認した資料と自作教材を使い、分類基準を整える |
| 着任後 4〜8 か月 | 講義と演習で教材を試し、学生の分類表と説明文を確認する |
| 着任後 9〜12 か月 | 判断が揺れた箇所を整理し、研究と授業計画の修正点をまとめる |

### 実現条件と確認する事項

初年度は自作教材と公開条件を確認できた資料を使う。学内設備や外部の協力者の確保を前提にせず、追加の資料利用や人を対象とする調査が必要になれば所定の手続きを確認する。

### 目標と検証できる範囲

授業では学生が根拠を示して説明できるかを分類表と説明文で確認する。研究では分類基準の適用例と限界を示す。